

令和6年度 TST放送番組審議会 議事録

1. 日時: 令和7年3月4日(火) 10時～12時

2. 場所: となみ衛星通信テレビ 研修室

3. 出席委員(順不同・敬称略)

会 長	広橋 里志	砺波市文化会館館長
委 員	林 紀代美	女声合唱団コール麗
委 員	山崎 匠	となみ青年会議所前理事長、(株)山崎組取締役
委 員	布袋 泰博	南砺市消防団福野分団長
委 員	種部 祥太	南砺市商工会青年部副部長
委 員	藤田 節子	カメラ友の会代表
委 員	森井 勇真	上平青年団前団長

欠席委員(意見提出あり)

副会長 宮窪 大作 宮窪建設代表、金屋石を語る会

4. 審議番組

①ムナカタが生きた町 総集編(令和7年1月1日週放送)

②KIROKU「株式会社福光工業」(令和6年8月5日週放送)

③富山県ケーブルテレビ協議会共同制作新春特番

「ワッショイ! 東西へびっ子大決戦」(令和7年1月1日週放送)

5. 主な意見

◇審議番組について

①ムナカタが生きた町 総集編

- ・総集編としてまとめることで、棟方の足跡が地域の誇りや地域に残したいものとしてよく理解できた。
- ・地域にゆかりのある偉人を地域の方々にもっと知ってもらいたいと感じた。特に子どもたちには知ってもらいたい。
- ・棟方志功は、教科書の挿絵などにも使われていて小さい頃から知っていた。よくできているので、ぜひ小学校に番組映像を配布してほしい。

- ・子どもたちが見るきっかけを作るために「すまいるきっず」の後に放送するの等の工夫をしてはどうか。
- ・子どもたちが見やすいような工夫(BGM・ナレーション)などをするのも良い。
- ・他の番組のあとに、棟方などの絵が出るだけでも子どもたちの興味をひくのでは？
- ・この番組に限らず、TSTの番組には字幕やテロップが少ないものがある。
字幕を付けたら子どもたちも見やすいのではないか。
- ・番組途中に旬の花など季節の風景も入り、いい映像だった。見ていて“ほっと”する。
- ・とても良い番組だが、放送されていたことを知らなかった。一般の方が見るきっかけ作りやPRも大切。
- ・棟方の紹介はもちろん、「棟方が生きた町」として福光のことを上手く紹介している。

②KIROKU「株式会社福光工業」

- ・会社のことは知っていたが、実際にどんなことをしている会社なのかは知らなかった。
番組を見てよく理解でき、新たな発見もあった。
- ・企業のことがわかりやすく紹介されていて、企業の人手不足の解決につながると思う。
- ・落ち着いて見ていられるが、全体的に番組のトーンが低いと感じる。
- ・司会が上手に話をまとめていて好感を持った。

③富山県ケーブルテレビ協議会新春特番「ワッショイ！東西へびっ子大決戦」

- ・子どもたちの笑顔が生き生きとしていて内容的には良かったが、番組の放送尺が長く感じた。
- ・長尺の番組が放送できることは、コミチャンの特徴の一つ。
- ・競技種目が工夫されていて、面白かった。
- ・県内局共同でこういう企画をしていること自体知らなかった。民放とは少し違った
地元密着の視点で面白い。
- ・特番よりも年間を通じてグランプリ企画などすると良いのでは。
定期的に企画すれば認知度が上がり、参加者も増えると思う。
- ・小学生の時にケーブルテレビへ会社見学に来たことを思い出した。子どもの頃に非日常的なテレビの裏側を見た体験は貴重で、今でも覚えている。子どもたちとケーブルテレビとの関わりをつくる、ファンになってもらう良い機会だと思う。
- ・会社見学を受け入れていることをもっと学校に知ってもらうことも大切。

6.その他の意見

- ・ ”ふるさとの匂い”に触れず育つ子が多い。大人の事情で季節の行事などが減少しているので、ケーブルテレビを通してふるさと事業を子どもたちに伝えていければ良い。
- ・ 全国放送で殺伐たる話題が多い中、地域のニュースや子どもたちの様子が見られてコミチャンをつけると“ほっと”安心できる。
- ・ 番組周知の手段として、LINEを検討されているとのことだが、年代的にはLINEは対応しやすい。TSTからの情報を整理して発信してほしい。
- ・ 消防操法大会の生中継は消防団員にとって励みになっている。
- ・ イベント「ユカタデダンス」が20周年を迎えるので取り上げてもらいたい。
- ・ 「ぐるっとなみ野これだけ生放送」が終了するのは寂しい。
“普段通りの食卓”という設定や表情に興味を惹かれた。楽しかった。
特別番組として放送するのも良いのでは。過去の映像も見てみたい。